

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2674000308
法人名	アサヒケアサービス株式会社
事業所名	グループホームさくら
所在地	京都府京都市西京区大枝中山町2-41 (電話) 075-333-3266

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	2007年10月25日	評価確定日	2007年12月25日

## 【情報提供票より】(2007年9月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		2000 円	

### (4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	70歳	最高	86歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西京都病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市の洛西、国道9号線沿いにあり、以前は別会社の寮であった建物を改築され、作られたグループホームです。入居者の習慣や性格を知ることから始まり、その人らしく暮らすことができるよう支援しています。また、個々の楽しみごとを大切に、日常的に家事や音楽、編み物などのホーム内での役割や楽しみごと、ボーリングや温泉など個別外出にも力を入れます。また、1泊旅行などの行事も多く支援されており、入居者は活き活きと過ごされています。地域の住人とも町内会の行事や活動に参加し交流が図られており、更に地域の中で暮らしていけるような取組みを考えています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を活かし、センター方式を取り入れたり、伝達研修を始めたり、スタッフと職員が同じ食事を一緒に食べる等様々な取組みを行っています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、スタッフ全員に自己評価表を配り記入してもらったものを管理者がまとめて作られました。外部評価の結果を踏まえ、ミーティングで改善策を話し合う予定にしています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの近況報告、行事の参加状況、関連法令の改正についてなどホームの生活を出席者に知ってもらうことや、地域性を教えてもらうことから、入居者の生活に役立っています。また、行政には運営推進会議の議事録を直接持っていったりされています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には、時間を作りコミュニケーションをとりながら日々の様子を伝えてたり、毎月便りにして送っています。また、3ヶ月に1度家族に向けての季刊誌を発行し、ホーム全体の報告を行っています。そして、意見箱の設置、苦情窓口の明示、運営推進会議などを利用し、家族が意見等を言う機会を設けています。意見や希望はそれぞれにホームで話し合い対応しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入り、町内清掃や地藏盆、敬老会等に参加しています。地区の行事や老人福祉センターのいきいきサロンに参加したり、散歩に出かけた際に挨拶をするなどの交流があります。また、グループホームについて知ってもらえるよう回覧板を利用したこともあります。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“心生き活き、心楽しく、その人らしく”という法人のグループホームの理念を掲げています。	○	法人の理念を基にホーム自身でより具体的な地域での生活も意識した独自の理念を作られることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時の研修で、理念について理解してもらうよう取り組んでいます。また、日々のケアの中で個々の入居者を尊重し、習慣や性格を踏まえた支援ができるよう心がけています。ミーティングでも意識し話合っています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、町内清掃や地蔵盆、敬老会等に参加しています。地区の行事や老人福祉センターのいきいきサロンに参加したり、散歩に出かけた際に挨拶をするなどの交流があります。また、グループホームについて知ってもらえるよう回覧板を利用したこともあります。	○	ホームから出かけていくばかりではなく、夏祭りなどの機会にホームを訪問してもらい交流を深めてはいかがでしょうか。また、地域向けの季刊誌も発行していきたいと考えています。是非、実現することを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、スタッフ全員に自己評価表を配り記入してもらったものを管理者がまとめて作られました。外部評価の結果を踏まえ、ミーティングで改善策を話し合う予定にしています。前回の外部評価を活かし、センター方式を取り入れたり、伝達研修を始めたり、スタッフと職員が同じ食事を一緒に食べる等様々な取り組みを行っています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告、行事の参加状況、関連法令の改正についてなどホームの生活を出席者に知ってもらうことや、地域性を教えてもらうことから、入居所の生活に役立っています。		

グループホームさくら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が行っている連絡調整会議に出席し、連絡調整や勉強会を行っています。また、運営推進会議の議事録を直接持っていったり、郵送したりしています。	○	運営推進会議の案内を送り、出席してもらったり、議事録を持っていったときに情報交換を行い、サービスの質の向上につながるよう取り組まれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に時間を作り、コミュニケーションをとりながら伝えているほか、電話や毎月日々の様子を便りにし送っています。また、3ヶ月に1度家族に向けての季刊誌を発行し、ホーム全体の報告を行っています。金銭管理についても毎月出納長のコピーを送付し、領収書原本をお返ししています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話を聞いたり、意見箱の設置、苦情窓口の明示、運営推進会議などを利用し、家族が意見等を言う機会を設けています。また、意見や希望はホームで話し合い対応しています。	○	家族会の設置や、家族アンケートなどを行い、小さなことでも全ての家族が希望や意見を言う機会を作って行かれることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入退職による職員の交代がありますが、法人内の異動はありません。職員交替の際は新たな馴染みの関係を築いていくよう努力しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に内部研修があり、その後は、その職員に合わせ必要と思われる研修に参加できるような体制を作っています。参加した研修は伝達研修を行い、全員でその内容を共有しています。	○	どのような研修にどのような職員が参加するかなど、年間の研修計画を立てられることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のグループホーム同士は会議などを通じて交流があります。また、区の連絡協議会に参加し情報交換などを行っています。		

グループホームさくら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来られたら、リビングでお茶を出したり他の入居者と過ごす時間を持ってもらっています。新しく家具を購入するのではなく使い慣れた家具を持ってきてもらったり、ホームでの生活に馴染めるよう配慮しています。また、入居後も家族の面会を多く来てもらい、相談しながら支援を行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が、1対1で関わりをもつ時間を大切に、昔からの習慣を聞き、様々なことを教えてもらいながら、共に生活をしている姿勢で支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、本人や家族の言葉そのままを記録に残しています。コミュニケーション困難な入居者には、表情や家族からの情報を聞き、本人の意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。カンファレンスに出席できない職員は、意見を事前に伝えています。	○	本人や家族の意向やケアの方向性を明文化したものがあれば、更に良いのではないのでしょうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行い、状態に変化のあった入居者には、速やかにカンファレンスを開き、見直しを行っています。		

グループホームさくら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者と職員の1対1ケアを心がけており、希望時の買い物同行や個別外出で温泉やボーリングなどに出かける機会もあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、提携病院の往診を受けています。入居時に本人や家族と話し合い受診機関を決めています。入居前からのかかりつけ医に現在も通院している人もおり、家族と協力し合い通院介助を行っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の看取りの指針が打ち出されており、ターミナル期の入居者の対応について考えられています。また、看護師が非常勤の職員として配置されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや声のトーンなど個々の入居者に合わせた対応を心がけています。また、記録等の個人情報は事務所の鍵付きの書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度声かけをし、その時々々の入居者の意思を尊重しながら、個々のペースでできるだけ過ごせるよう支援しています。		

グループホームさくら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで、できる入居者と一緒に行っています。調理を一緒にすることができない入居者も、好みのものを取り入れたり、買い物と一緒にいたり、楽しむことができるよう支援しています。また、一緒に食卓を囲み、食事をとりながらさりげないサポートも行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を聞き、毎日入浴している人も多く、少なくとも2～3日に1回は入浴できるように支援しています。現在は、夕食後に入浴されている人はいませんが、希望があれば対応することもできます。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、食事作りなどの家事のほか、ピアノや編み物、園芸など個々の入居者の楽しみごとが日常生活の中にあるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけたり、老人福祉センターの行事に参加し外出する支援を行っています。外出できない日もホームの敷地内で外に出て、季節を感じたり日向ぼっこをしたりすることも日常になっています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関の鍵はかけていませんが、ホーム前は車の交通量の多い国道であり、安全のため門の鍵は閉めています。庭には自由に入出入りができ、希望に合わせて外に出れるように支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練や消防訓練を行っています。隣に会社があり、避難訓練の時には声をかけています。	○	運営推進会議を利用し、地域の住人の協力が得ることができるようしていきたいと考えられています。実際に避難訓練に参加してもらい、協力が得られる取り組みを期待します。

グループホームさくら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や一日の水分摂取量をチェックしています。また、提携病院の栄養士に献立を見てもらい、指導を受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのコスモスの絵などが飾られ、季節感があり、落ち着いた雰囲気があります。事務所にソファを置き開放したり、2階の共有空間には畳のスペースがあったり、個々が思い思いに過ごすことできるように工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ってきてもらったり、家族の写真や孫からもらったぬいぐるみを飾っていたり、個々の入居者がその人らしく生活できるよう配慮しています。		